

大豆栽培こよみ

大豆の生産安定をめざして

栽培上の要点

- は種前排水対策の徹底による苗立数の確保
- 基本技術の実践
(中耕培土の徹底・除草・防除の徹底・畦間通水の実施・適期収穫)

生育過程	5			6			7			8			9			10					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
生育過程	は種期			出芽期			開花期 全体の50%が開花した頃			さや伸長			子実肥大			黄葉・落葉			成熟期		
作業手順	排水対策	カキ鉄エース散布	基肥施用	1日行程 耕起・種消毒・種・覆土	除草剤散布	第一回土寄せ	追肥	第二回土寄せ	第一回開花期 防除	第二回開花期 防除	第三回開花期 防除	刈取り時期	収穫作業			コンバイン	乾燥・調整	出荷・検査			

① 種子更新の徹底 品種：里のほほえみ

② 排水対策

- 畝立同時は種は初期の湿害回避に有効です。
- 地下水位50cm以下を目標とし、水田周囲及び圃場内に排水溝を掘る。また弾丸暗きよを併用するとよい。

③ 種子消毒(ネキリムシ・フタスジヒメハムシ、紫斑病予防、ハト害対策)

薬剤名	使用方法
クルーザーMAXX	種子1kgに対して、クルーザーMAXX 8mlを処理し、10分間風乾する。キヒゲンの粉衣処理が省けます。
キヒゲン	種子1kgに対してキヒゲン水和剤10g+識別剤10mlを処理し、10分間風乾する。ネキリムシやフタスジヒメハムシ防除には、種子にクルーザーFS30を処理する。

- 種子消毒は必ず実施する。
- 機械は種の場合は詰まる恐れがあるので十分に風乾させる。
- クルーザーMAXXは、キヒゲンの粉衣処理が省け、かつ茎疫病にも効果があります。

④ は種

	は種時期	は種量/10a	条間	株間	苗立数/10a	苗立数/m
普通	6月5日～6月20日	7～8kg	75～80cm	13cm(2粒播)	15,000～18,000本	12～14本
麦跡	6月6日以降	7～8kg	75～80cm	13cm(2粒播)	15,000～18,000本	12～14本

- 耕起からは種までの一連の作業は土壌条件の良い日に行い、1日で終わるようにする。
- 砕土は細くし、は種の深さは3cm以内とする。
- 雑草の多い圃場では耕起前にはバスタ液剤500mlを、は種10日前までならラウンドアップマックスロード500mlを水100%に溶かし、10aに散布する。

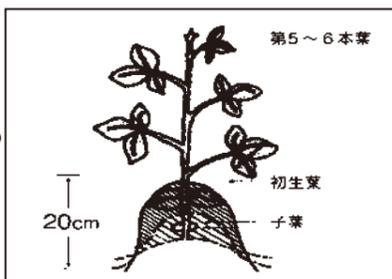
⑤ 施肥基準

施肥時期	肥料名	10a当り施用量	備考
土づくり(酸度矯正)	カキ鉄エース	100kg	酸度矯正はPH6.5～7.0を目標とする。は種までは、7～10日間あけること。
基肥	BB056	20kg	麦稈を鋤込んだ場合は、30kg/10a施用する。連作田では、25kg/10aの施用とする。
	BB大豆一発	30～40kg	麦稈を鋤込んだ場合は、40～50kg/10a施用する。肥沃田・野菜跡の場合は、30kg/10a施用する。
追肥	LPコート70(被覆尿素70)	20kg	第2回培土時20kg
	硫安	30kg	第2回培土時10kg/10a 7月下旬20kg/10aの2回

(追肥は散布後に培土するので、雨にあわない期間を狙って作業する)

⑥ 土寄せ

- 第1回  本葉が2～3葉開いた時、子葉節がかくれる程度まで土寄せする。
- 第2回  本葉が5～6葉開いた時、初生葉と第1本葉の中間を目安に土寄せする。
- 土寄せは湿害防止、倒伏防止、雑草抑制効果があり、特に収量を高めるための重要な作業です。
- 株元に十分に土寄せし、うねの中央部が低くならないようにする。
- 遅くとも開花期までに2回目の土寄せを終わらせる。



⑦ 除草剤散布 周辺圃場に薬剤が飛散しないように注意すること

- は種覆土後

薬剤名	10a当り散布量	希釈液	備考
クリアターン細粒剤F	5kg		畑地1年生雑草
ラクサー粒剤	4～6kg		
トレフノサイド乳剤	希釈液100%	水100%に薬量250ml	畑地1年生(キク科等除く)

- 7月上旬

散布時期	薬剤名	10a当り散布量	希釈液	備考
イネ科雑草3～5葉期	ナブ乳剤 または ホルトフロアブル	希釈液100%	水100%に薬量200ml	収穫2ヵ月前まで
イネ科雑草3～8葉期		希釈液100%	水100%に薬量300ml	収穫60日前まで
広葉雑草(主にタデ類)生育初期～6葉 大豆本葉2葉～開花期前	大豆バサグラン液剤	希釈液100%	水100%に薬量150ml	大豆の葉に斑点、色抜け、黄変、萎縮、部分枯死等の薬害が生じる場合がある。収穫45日前まで(JAより使用説明を受ける必要あり)

- 畝間及び畦畔除草

特に畝間に散布する場合は、大豆に飛散しないように注意する。
散布時期…雑草生育期

薬剤名	10a当り散布量	希釈液	使用限度回数	備考
ラウンドアップマックスロード	希釈液50%	水50%に薬量500ml	1回(大豆生育期)	収穫前日までには種前と生育期1回ずつでも可。
バスタ液剤	希釈液100%	水100%に薬量500ml	3回	収穫28日前まで
ブリグロックスL	希釈液100～150%	水100～150%に薬量600～1000ml	4回以内	収穫3日前まで

⑧ 病虫害防除(良質大豆生産のため必ず実施すること)(個人防除)

防除時期	薬剤名	散布量	対象病虫害
1回目 7月下旬～8月上旬(開花期)	スミチオンベルコート粉剤DL	3kg	紫斑病、マメシクイガ、カメムシ
2回目 8月中旬(幼莢期～子実肥大前期)	スミチオンベルコート粉剤DL	3kg	紫斑病、マメシクイガ、カメムシ
3回目 9月上旬(子実肥大期)	トレボン粉剤DL	4kg	カメムシ、ハスモンヨトウ、マメシクイガ、フタスジヒメハムシ

⑨ 干ばつ対策

開花後(7月下旬)以後、猛暑が続き、葉が裏がえる症状が見られたら畝間灌水を行う。なお、畝間に水が行きわたった時点で落水すること。

⑩ 収穫・脱粒・調整

- 収穫の手順

コンバイン収穫の場合	収穫適期の目安
■ 収穫適期の目安	● 子実の水分が18%以下
	● 全莢の90%以上が褐色、茎が黄褐色～褐色。
	■ 収穫作業は、茎、莢が十分乾燥した午前10時以降に行い、刈取り部は土を入れないように注意すること。
	■ 「汚損粒」の発生を防止するため、雑草や青立ち株は刈取前に必ず取り除くこと。

- 調整

子実の水分が13%程度になるように仕上げる。